

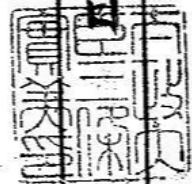
屏 本 俣

開拓長官黒田清隆

太政大臣三條實美殿

上申之趣海軍省へ相違候事

明治八年五月五日



開拓中判官長谷部辰連
全 城 基

右兩名ノ中基ハ維新ノ際ヨリ辰連ハ庚午以來樺太
島ニ在勤シ多年絶海洄寒ノ苦シ厭ハサルノミナラ
ズ其地魯人雜居ノ故ヲ以テ紛雜ノ事勢ナカラザル
ニ二人相議シ堅忍持重能ク兩國ノ交際シ全フス其
勞益シ淺少トセバ今般土地交換ニ付兩國理事官立
會百般事項ヲ查覈シ該島交付ノ事既ニ完整セリ就
テハ所詮議ノ上右兩名ニ相當品賞賜相成候様致度
此段相伺候也

明治八年十一月廿七日

開拓長官黒田清隆

太政大臣三條實美殿

中判官長谷部辰連

月 石 史

領之趣 閣届候事

明治八年十二月十四日



開拓使

開拓使五等出仕時任為基

右若先般榊太鳴クリル鳴ト交換序結約ニ付事務為
處分榊太工出張ノ處理事官被 命候ニ付更ニ魯領
東察加工出張魯國理事官ト共ニクリル諸鳴巡航ノ
際既ニ北海航行ノ季節ニ後ルヲ以テ屢大霧烈風
ニ逢ヒ上陸スル能ハズ不得已一旦根室港ニ還リ更
ニ危険ヲ冒シ再航竟ヒニ實境ニ概查シ該駕領受ノ
使命ヲ全フシ候ニ付テハ所詮議ノ上相當ノ慰勞被
成下度此段相伺候也

明治八年十一月廿七日

開拓長官黒田清隆

太政大臣三條實美殿

中六十七

月 石 史